

予防接種スケジュール

※このスケジュールは、定期接種については、予防接種リサーチセンターの提案、任意接種については、『VPD(ワクチンで防げる病気を知って、子どもを守ろう。』の会の提案によるものをもとにして作成しています。この通りに接種しなければならぬというものではありません。予防接種の進め方については、かかりつけの小児科医と相談をしながら受けてください。

 定期予防接種(公費)の対象年齢
 任意接種の接種できる年齢
↔ おすすめの接種時期 (数字は接種回数)

ワクチン名		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	学童期		
		▼	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	8		
定期接種	不活化 ワクチン B型肝炎		①	②	→		③	→		0歳のうちに3回接種が必要。 3回目は、1回目から5-6か月の間隔をあけて受けます。								
	経口生 ワクチン ротavirus	1価		①	②	→		1価ワクチンと5価ワクチンがあります。遅くとも生後14週6日までに接種を開始し、それぞれの必要回数を受けましょう。										
		5価		①	②	③	→											
	不活化 ワクチン 小児の肺炎球菌 (15価・20価)			①	②	③	→		1歳までに3回目を受けます		④	→		接種を始めた時期によって回数が変わりますので、かかりつけの小児科医と相談しましょう。				
	不活化 ワクチン 五種混合 (DPT-IPV-Hib)			①	②	③	→		←		④	→		4回目は、3回目から6か月の間隔をあけて受けます。				
	生 ワクチン BCG			←		①	→		1歳未満まで									
	生 ワクチン MR (麻疹風しん混合)			←		①	→		1歳未満まで		①	→		小学校入学の前年(幼稚園・保育所の年長に相当)1年間に接種(4月～6月がおすすめ)				
	生 ワクチン 水痘 (水ぼうそう)			←		①	→		6月から12月までの間隔を置いて2回		①	→		9歳で追加接種(接種対象9-12歳)				
	不活化 ワクチン 日本脳炎			←		①	→		6月から12月までの間隔を置いて2回		①	→		②		→		1回目の1～4週後に2回目、その約半年後に3回目を接種します。
不活化 ワクチン 子宮頸がん (ヒトパピローマウイルス)			←		①	→		6月から12月までの間隔を置いて2回		①	→		②		→		初回接種が15歳未満なら2回接種、15歳以上なら3回接種。	
			←		①	→		6月から12月までの間隔を置いて2回		①	→		②		→		標準的に中学1年生で接種開始(接種対象：小6から高1の女子)	

ワクチン名		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	学童期
		▼	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	8
任意接種	生 ワクチン おたふくかぜ 有料			←		①	→		②		→		流行状況をふまえて、かかりつけの小児科医と相談しましょう。			
	不活化 経鼻生 インフルエンザ 有料			←		①	→		②		→		毎年、10月から11月ごろに接種しましょう。			
	mRNA 不活化 新型コロナ 有料			←		①	→		②		→		2歳からは鼻に噴霧する生ワクチンもあります。			
	渡航ワクチン 有料			←		①	→		②		→		接種年齢やワクチンの種類によって、接種スケジュールが異なります。事前に最新情報をご確認ください。			
			←		①	→		②		→		海外渡航の際には、上記のほか、黄熱、A型肝炎、狂犬病などのワクチン接種が必要な場合があります。渡航が決まったら、なるべく早くトラベルクリニック等で予防接種の相談をしましょう。				